

## 令和4年度 音楽科 合唱講習会

令和4年6月27日（月）に作曲家の三宅悠太先生をお招きし、合唱講習会を開催しました。  
7月16日（土）に行われる定期演奏会で合唱する『帰郷—女声合唱とピアノのための—』（作詞：谷川俊太郎 作曲：三宅悠太）の合唱指導をしていただき、定期演奏会へ向けて意欲をたかめるとともに、合唱だけにとどまることのない有意義な講習会となりました。



↑ 三宅 悠太先生

### 冒頭のヴォカリーズについて…



（感想）

三宅悠太先生お話から冒頭のヴォカリーズは聴き手を言葉の世界にひきこむためのものと知りました。また、そのあとに歌う歌詞の断片のメロディが使われていることを知り、ヴォカリーズが大切な役割を持っていて、始まりの重要な要素ということに気づきました。

## ピアノの伴奏について…



(感想) 初めのピアノの音は、心臓の鼓動と聴き、イメージをもって歌うこと、そしてどんな鼓動なのかを考えて歌うことで、曲に対する意識が変わりました。

## その他にも多くの観点からご指導をいただきました

(感想) 強弱のp(ピアノ)について、f(フォルテ)を圧縮してpにするという考えに驚かされました。

(感想) 生から命の終わりまでの大きな物語があること、それらを表現するための音楽的な要素がたくさん詰め込まれていることに気づき、すべてを大切に歌いたいと思います。



## 生徒からの質問にも答えていただきました♪



(感想) 作曲者の三宅悠太先生から直接指導していただけたことに感謝しています。曲の解釈や作曲の意図を聴くことができ、曲に対して思考を深められたり、疑問が解決できたり、重要なところを教えていただくことができとても勉強になりました。